

平成26年度 当初予算事業の概要説明書 (兼評価説明書)

1. 事務事業の概要

□ 完了 ■ 評価対象 ■ 行計対象

事務事業名 (中事業)	18619 有害鳥獣駆除事業				
基本政策	02 産業が元気！活力とにぎわいあふれるまち				
政策	03 地域特性と魅力を高めた農林業				
施策	03 生産を支える農業農村環境の整備				
実施形態	補助・負担金				
事業期間	単年度	平成1年度～			
要求区分	継続	予算区分	政策		
事業の実施を市に義務づける国の法令					
有無	「できる」規定あり				
法令条項	鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律第4条第1項				
予算科目	01-060201-050100				
部名	04 建設経済部	課名	01 農林振興課		
課長名	嶋津 悟	T E L	0795-22-3111	内線	319

2. 対象・目的・内容

事業概要	農作物被害を発生させている特定外来生物の捕獲駆除、有害鳥獣駆除及びシカ捕獲に係る活動への補助及び狩猟期中のシカ捕獲に係る負担金の支払い
事業の対象 (誰・何を)	西脇猟友会有害駆除班の有害鳥獣駆除活動に対するもの
事業の目的 (どういう状態にするために)	有害鳥獣駆除には銃器等使用の許可取得者でないと実施できず、有害駆除班に活動を依頼する。猟友会は山の状況も把握しており、効率的に活動し、農作物被害の縮小が期待でき、農家の経営安定が図られる。
事業の内容 (どういう内容を行うのか)	有害駆除班に銃器、わなによる有害鳥獣駆除活動を依頼する。あわせて活動への支援を行う。

3. 年度別事業費

(単位：千円)

	事業費							
	国庫支出金	県支出金	地方債	分担金負担金	使用料手数料	その他	一般財源	
平成23年度決算額	3,841	0	991	0	0	0	0	2,850
平成24年度決算額	3,179	0	658	0	0	0	0	2,521
平成25年度決算額	4,413	0	636	0	0	0	0	3,777
平成26年度予算額	6,408	0	1,004	0	0	0	0	5,404

4. 総コストの概算

(単位：千円)

平成25年度のこの事業に従事している職員数		従事職員数	人件費(A)	平成25年度決算額(B)	総コスト (A) + (B)
一般職員	嘱託・臨時職員				
0.20	0.00	0.20	1,559	4,413	5,972
事業費の主な用途		出役費、捕獲料等			

平成26年度 当初予算事業の概要説明書 (兼評価説明書)

5. 事業の実績・目標

活動 指標 ①	指 標 名	駆除活動人数(述べ)				単 位	人
	説 明 や 数 式	シカやイノシシ等の有害鳥獣からの被害を縮小するための駆除活動					
	年 度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目 標 値	1,700	1,800	1,900	1,900		
	実 績 値	1,775	1,770				
	経 費 (千 円)	4,738	5,972				
単 位 当 た り の コ ス ト	2.67	3.37					
活動 指標 ②	指 標 名					単 位	
	説 明 や 数 式						
	年 度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目 標 値						
	実 績 値						
	経 費 (千 円)						
単 位 当 た り の コ ス ト							
成 果 指 標 ①	指 標 名	捕獲頭数				単 位	頭
	説 明 や 数 式	猪45頭 鹿60頭 スーテリア70頭 アライグマ60頭 捕獲総数235頭					
	年 度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目 標 値	300	395	235	295		
	実 績 値	134	166				
	経 費 (千 円)	4,738	5,972				
単 位 当 た り の コ ス ト	35.36	35.98					
成 果 指 標 ②	指 標 名					単 位	
	説 明 や 数 式						
	年 度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目 標 値						
	実 績 値						
	経 費 (千 円)						
単 位 当 た り の コ ス ト							
実 績 ・ 成 果 等 の 説 明	有害鳥獣の駆除を実施することにより、農作物被害を最小限に食い止め、農家及び営農組合の経営安定化を図ることができた。 【捕獲実績】(H24) 134頭 (H25) 166頭 【被害面積】(H24) 1,520 a (H25) 1,279 a						

6. 評価

1 次 評 価	評 価 ポ イ ン ト	事業の優先度(緊急性)	4	事業の必要性	2	実施主体の妥当性	4
		直接のサービスの相手方	4	受益者負担の適切さ	5	市民ニーズの把握	4
	事 業 の 総 合 評 価	継続実施					
説 明	鳥獣による農作物の被害が増えれば、農家の鳥獣被害対策は大きな負担となる。また、生産意欲の減退につながり、耕作放棄地の増加につながりかねない。 よって、市は責任を持って、有害駆除班や農家と綿密に連携し、駆除を継続していくべきである。						
2 次 評 価	評 価 ポ イ ン ト	事業の優先度(緊急性)	4	事業の必要性	2	実施主体の妥当性	4
		直接のサービスの相手方	1	受益者負担の適切さ	5	市民ニーズの把握	4
	事 業 の 総 合 評 価	継続実施					
説 明	有害鳥獣による農作物への被害を軽減するためにも、当該事業は継続的に実施していく必要がある。 成果を鑑みると、捕獲頭数の実績が農地被害面積の減少へとつながっており、効果的に事業が実施できているものと判断した。 防護柵等他の事業と連動して、農作物被害の軽減と農家等の経営安定に努めることのできる事業として、継続実施と判断する。						